

教育研究上の目的及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

＜短期大学部＞

―教育研究上の目的―

本大学は高等学校の教育の基礎の上に生物生産技術学、環境緑地学及び醸造学に関する実際の専門職業に重きを置く大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とする。

―教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）―

短期大学部は、教育の理念「実学主義」に基づき、農学に関する実践的、専門的な職業教育を施し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- (1) 幅広い知識と教養を身につけるため、専門科目の導入的な科目を学部共通科目として配当する。
- (2) 専門知識の修得に必要な基礎となる科目を「専門基礎科目」に配当する。
- (3) 専門知識を深く理解するための専門・応用科目を「専門コア科目」に配当する。
- (4) 実践的な技術と応用力を修得するため、「専門基礎科目」及び「専門コア科目」には実践的な科目を配当する。

＜生物生産技術学科＞

―教育研究上の目的―

本学科は、動物と植物の生産を有機的に結合し、地球環境の保全にも配慮した生物生産体系の確立を目指して、講義と実験・実習・演習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を行うことにより、実践的な専門知識と教養を兼ね備えた専門職社会人として社会に貢献できる人材を養成する。

―教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）―

生物生産技術学科は、講義と実験、実習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を根幹として、ディプロマ・ポリシー掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- (1) 幅広い知識と教養を身につけるために、専門科目の導入的な内容を有する科目を学部共通科目として配当する。
- (2) 専門分野の内容をより深く理解するため、専門知識だけでなく問題解決力を身につけるための専門科目を配当する。
- (3) 実践的な専門知識を修得するための実験、実習科目と、専門知識を深めるとともにそれぞれの現場で専門技術を実践し、将来設計の手助けとなる「生物産業インターンシップ」を配当する。
- (4) 自らの調査や実験の結果を解析することによって、問題解決力、表現力、コミュニケーション力を高めるために「卒業論文」を配当する。

＜環境緑地学科＞

—教育研究上の目的—

本学科は、人と生物とが共存できる緑豊かな生活環境の創造をめざして、人格の陶冶、基礎理論に裏打ちされた思考から現場での問題を解決できる応用能力を身に付け、環境緑化及び造園業の自営者や後継者、緑化・花卉関連産業の第一線で活躍し、その発展に寄与しうる行動力のある人材を養成する。

—教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）—

環境緑地学科は、基礎理論に裏打ちされた思考から現場での問題解決能力や応用能力の修得を目指し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- （１） 緑豊かな生活環境創造に必要な基礎科学と基礎技術に関連する科目を配当する。
- （２） 緑豊かな生活環境創造に必要な関連諸知識と技術およびそれらを応用して問題を解決する実践力を身につけるための科目を配当する。
- （３） 設定目標の実現や問題解決のために相手を理解・評価し、自分の考えを伝えるとともに誤りを訂正する能力（理解力、発表力、討議力）を身につけるための科目を配当する。
- （４） 設定目標の実現や問題解決のための課題を設定し、それについて具体的に取り組み、まとめ、発表する能力を身につけるための科目を配当する。

＜醸造学科＞

—教育研究上の目的—

本学科は、実学主義に基づいた実験・実習・演習科目を重視したカリキュラム構成であり、基礎学力の向上とともに最新科学技術と我が国伝統の醸造技術を総合的に学ぶ点を特徴としている。これらを基に、醸造食品業界をはじめとする社会の様々なニーズに即応可能な実践力を有する人材を養成する。

—教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）—

醸造学科は、本学の教育理念である「実学主義」に基づいた実験・実習科目や演習科目にも重点を置いた教育を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- （１） 社会人基礎力としての知識・教養を身につけるための一般教養科目を配当する。
- （２） 醸造学全般およびその周辺領域の学問の概要を学ぶための基礎的科目および専門科目を配当する。
- （３） 醸造学全般およびその周辺領域の学問に関わる技術・手法を修得するための実験実習および演習科目を配当する。